

状態は良好であつた。

3) 呼吸器系・呼吸困難は認められなかつたが表に示される如く一般に呼吸数の抑制傾向が認められた。

4) 中枢系：約12時間に亘つて昏睡状態を呈したものと考えられるが意識回復時における不安、亢奮、譫妄状態は全くみられなかつた。然し覚醒後といえども軽度の傾眠傾向が数時間に亘つて認められた。又意識回復後に軽度の筋強剛、四肢振顫等所謂パーキンソニスムスの症候がみられた。

5) 発熱：身体的併発症もみとめられないにも拘らず発熱を数日に亘つて認め、第1病日には38°Cに達する体温の上昇がみられた。

6) 尿通：排尿回数は日に5~6回であり頻尿はみられないが1日の尿量は約2200ccで若干の多尿傾向を思わしめた。

7) 皮膚反応及び肝障害：発汗、発疹、浮腫は全く認められなかつた。肝腫脹、胆汁成分の証明、黄疸の発現もみられず尿中ウロビリノーゲンの強陽性のみにとどまつた。

8) 出血傾向：咽頭及び鼻粘膜の発赤、充血著明にして一過性の鼻出血を認めた。

考 按

1953年 Courvoisier¹⁾ 等が行つた動物実験ではクロールプロマジンは比較的毒性の少いものであるとされていたが、その後臨床例を重ねると共に種々の合併症が報告されるに至つている。合併症は一応副作用と有毒作用に分けて考える事が出来る。副作用は中枢神経系に対するクロールプロマジン本来の薬理作用によるものであり治療に當つて必然的に認められる性質のものであり、一方有毒作用は稀に発現するか、或は大量投与の際に限つて認められる症状であると考えてよいのではあるまいか。今回我々の経験した症例において特に注意すべき点は①血圧の低下、特に最低血圧の低下②呼吸数の抑制傾向③

約12時間に亘り昏睡状態を呈したが意識回復時に他の眠剤中毒症にみられる様な不安、興奮、譫妄状態が全く認められなかつた④体温の上昇⑤軽度の多尿傾向⑥出血傾向等であつた。之等個々の症状は昏睡状態を除いては有毒作用というよりはむしろ松岡²⁾、工藤³⁾の報告や日常我々が治療に當つてみられる副作用と考えられるべきものであるがその程度が異常に強く而も一時的に出現した点が大いに異なるものであろう。本症例の如きクロールプロマジンを一時的に過量服用した報告は極めて少く Hopkin⁴⁾ は自殺の目的で1750mgを服用し3日後に回復した例を報告し、Winkelman⁵⁾ は750mgを服用せるも無事回復した例を記載し、Sacks⁶⁾ は2500mgを服用、7日目に肺炎を併発死亡せる例を報告、又金沢⁷⁾ も2500mgを服用10日目に同様肺炎を併発し死亡せる例を報告しているのをみるに過ぎない。Viaud⁸⁾ によればクロールプロマジンのLD₅₀はマウスで静注の場合50~60mg/kg 経口投与では75mg/kgであるといわれているが本例の場合、偶々Hopkinの症例と一致せる事は極めて興味深く前述の各報告と考えあわせクロールプロマジン1750mg~2500mgが生体における一応の限界量を示唆するものではないかと想定される。勿論服用量のみがすべてを決定づけるものではなく身体的素因と相俟つ事は申す迄もないであらう。

結 論

18才、男子。精神分裂病の患者で自殺の目的を以てクロールプロマジン1750mgを一時的に服用し無事回復し得た一例について報告した。

摺筆するに当り御校閲を賜つた奥村二吉教授に深甚なる謝意を表します。尚本論文の要旨は第10回中、四国精神神経学会において口演した。

文 献

- 1) Courvoisier, S. et al. : Arch. int. Pharmacodyn. 92, 305, 1953.
- 2) 松岡：最新医学, Vol. 11, No. 2, 1956.
- 3) 工藤：診療, Vol. 9, No. 1, 1956.
- 4) Hopkin, D. A. B. : Brit. Med. J. i, 166,

1955.

- 5) Winkelman, N. : J. A. M. A. 155, 18, 1954.
- 6) Sacks, N. Z. : Lancet, ii, 985, 1957.
- 7) 金沢：日本医事新報, No. 1781, 53, 1958.
- 8) Viaud : J. Pharmacol. 6, 361, 1954.

A Case Report of Acute Intoxication by Chlorpromazine

By

Akimasa IMAI

and

Hiroshi MATSUI

Department of Neuro-Psychiatry Okayama University Medical School

(Director: Prof. Nikichi Okumura)

Ni-i-hama Sanatorium for Mental Diseases Ni-i-hama City, Ehime Prefecture

Recently chlorpromazine is being widely used in clinics and the literature on its side effect is quite abundant, but the report on the acute intoxication caused by this drug is extremely rare.

In the present paper we have made a case report on an acute intoxication encountered with a schizophrenic patient who took 1,750 mg of chlorpromazine in an attempt to commit suicide, but was cured about three days later. Rare experiences we had with this case have been discussed.
